

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 13 日現在

機関番号：32503
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22720064
 研究課題名（和文）写真と疑似科学

研究課題名（英文）Photography and Pseudoscience.

研究代表者

浜野 志保（HAMANO SHIHO）
 千葉工業大学・工学部・助教
 研究者番号：90550666

研究成果の概要（和文）：本研究は、十九世紀後半から二十世紀初頭にかけて大量に撮影されたパラノーマル写真（心霊写真、念写など）の事例研究である。パラノーマル写真に関する一次資料をイギリスおよびドイツでの調査によって収集した後、視覚文化史および疑似科学史と照らし合わせ、網羅的かつ体系的なパラノーマル写真の発展史の構築を試みた。以上の成果については、『パラノーマル写真史（仮題）』として 25 年度内に青弓社より刊行予定である。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the cultural-historical meaning of paranormal photographs (spirit photography, thought photography, fluid photography, etc.) from the late nineteenth century to the mid-twentieth century. The cases were gathered through British and German libraries and studied from the viewpoint of the history of visual culture. The result will be published as a book in 2013.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：芸術学・芸術史・芸術一般

科研費の分科・細目：芸術一般

キーワード：スピリチュアリズム、写真史、心霊写真、念写、視覚文化史

1. 研究開始当初の背景

近年の写真史研究において、特に注目を集めているのが、「ヴァナキュラー写真」と呼ばれる種類の写真である。「ヴァナキュラー写真」という語の定義はまだ確定していないが、一般的には、芸術の生産流通のプロセスから外れた写真、すなわち、芸術的な意図を持たずに制作され、芸術作品とは違う形で使用される写真を指すものである。具体的には、家族アルバムや、ジェフリー・バッチェンが Forget Me Not(2006)で紹介した写真入りの

装飾品などがこれに該当する。バッチェンをはじめ多くの写真史家たちは、こうしたヴァナキュラーな写真の在り様を通じて、写真という視覚メディアの本質に迫ろうと試みてきた。

このような潮流を背景として、1990 年代後半以降、旧来の写真史研究においては扱われることのなかった、心霊写真や念写、流体写真などの「パラノーマル写真」についても、学術的な研究の対象として見直されはじめている。特に 2000 年以後は、パラノーマル

写真を集めた展覧会図録 *Perfect Medium* (2005) や *The Faces of the Living Dead* (2006) などに加え、John Harvey による心霊写真研究 *Photography and Spirits* (2007) などが刊行された。日本国内でも、心霊写真についての論集『心霊写真は語る』(2004) に続き、ハーヴェイ前掲書の翻訳『心霊写真』(2009) も出版されるなど、このジャンルへの注目は高い。

しかし、パラノーマル写真の研究については、これまでのところ、個別の事例の紹介が中心であり、このような写真が登場した歴史的背景が問われることはほとんどなかった。また、これらの一見特殊な写真が、写真というメディアの本質とどのように関わっているのかについても、十全な議論は為されてこなかった。これは、パラノーマル写真が、実際に存在しているかどうかさえ不明なものを被写体としており、実在の事物の痕跡あるいは指標という写真イメージの性質から逸脱しているように見えるためである。

申請者はこれまで、視覚文化史的観点から、心霊写真や念写といったパラノーマル写真の研究を行ってきた。これは、不可視の対象を視覚化する表象の在り方にこそ、写真というメディアを近代視覚文化史の流れの中に位置づけるための手がかりがあると考えられるからである。このような申請者の考えは、主に、バーバラ・M・スタッフオードの『ボディ・クリティシズム』(1993) や『アートフル・サイエンス』(1996) などの 18 世紀視覚文化史研究に依拠している。Stafford がこれらの著作で論じているように、知識の大衆化が進んだ啓蒙時代においては、不可視あるいは肉眼不可視の対象を視覚化する試みが盛んに行われた。申請者の研究してきたパラノーマル写真も、大部分は疑似科学において用いられたものであり、不可視/肉眼不可視の対象を視覚化するという企図において、18 世紀の諸事例からの連続性が認められる。

本研究では、このようなパラノーマル写真の事例を、イギリス・アメリカでの現地調査によって収集し、視覚文化史的観点から分類・分析することで、網羅的かつ体系的なパラノーマル写真の発展史を編成する。これにより、「視覚化」の概念を軸とする近代視覚文化史とパラノーマル写真の展開を関連づける。さらに、パラノーマル写真の分析を手がかりとして、写真というメディアの性質に関する新たな視点を提示する。これにより、近代視覚文化史におけるヴァナキュラー写真の位置づけを行い、ヴァナキュラー写真論の射程を拡張することを目指した。

2. 研究の目的

(1) 1860 年代～1960 年代のイギリスおよび

アメリカの疑似科学において、写真が用いられた様々な事例(心霊写真、念写、流体写真など)を収集し、その分類・分析を行うことで、パラノーマル写真の発展史をまとめる。

(2) パラノーマル写真に見られる《不可視のものを可視化する》という表象のあり方を、「視覚化」をめぐる 18 世紀以降の視覚文化史の中に位置づけることで、視覚メディアとしての写真の性質を文化史的観点から再検討する。

3. 研究の方法

(1) 本研究の調査対象

本研究の調査対象とする時代は、1860 年代から 1960 年代までに限定した。1860 年代以降に限定したのは、心霊写真の存在が初めて確認されたのが 1860 年代初頭だからである。1839 年から 1850 年代までの時期の写真(特に最初期の写真術であるダゲレオタイプ)については、疑似科学において用いられた事例が未だに確認されていないため、本研究の調査対象から除外した。また、1960 年代までに限定したのは、1960 年代後半にアメリカで行われたテッド・シリアスによる念写実験より後には、この分野において特筆すべき事例が見当たらないためである。

1970 年代以降の時代を調査対象から除外したことにより、必然的に、デジタル写真については調査の対象外となった。アナログ写真とデジタル写真の差異の大きさを考えた場合、両者を同時に扱うことは困難であるので、デジタル写真については本研究終了後の研究課題とする。

(2) 2010 年度に実施した現地調査

上記の調査対象について、イギリスの図書館で一次資料の収集を行った。

ケンブリッジ大学図書館では、1880 年代から 1920 年代にかけての時期を中心に、スピリチュアリスト向けの定期刊行物および心霊科学研究誌 (*Light, The Spiritual Magazine, Borderland, Psychic Research Quarterly, Revue Metapsychique* 等) を中心に調査した。これらの資料の多くは Society for Psychical Research Library として所蔵されているものである。British Journal of Photography をはじめとする同時代の写真雑誌や、スピリチュアリストによる著作についても可能な限り参照した。

さらに、ロンドン大学図書館が Harry Price Library として所蔵している文献および一次資料(パンフレット、写真、書簡、新聞・雑誌の切り抜き)についても調査した。Harry Price Library は、霊媒のトリック暴きで有

名なハリ・プライスのコレクションが寄贈されたものである。

本年度の調査では、疑似科学における写真の利用の内、心霊写真、流体写真、念写を中心として調査を行った。

(3) 2011 年度に実施した現地調査

前年度に引き続き、ロンドン大学図書館セネットハウスライブラリー所蔵の文献資料（パンフレット、写真、書簡、新聞・雑誌の切り抜き）を中心に、調査を行った。調査範囲については、22 年度は写真に関するものに限定していたが、23 年度は透視・物質化・テレパシーなど、スピリチュアリズムにおける諸々の物理現象（physical phenomena）等についても含めた。これは、パラノーマル写真についての本質的な理解を深めるため、周辺事情についても調査する必要性が生じてきたためである。

(4) 2012 年度に実施した現地調査

20 世紀のドイツ国内およびドイツ語の出版物を網羅的に所蔵するドイツ国立図書館ライプツィヒ館において、ドイツにおける心霊研究および疑似科学に関する一次資料の収集を行った。調査の中心となったのは、19 世紀末から戦間期にかけてドイツ国内で流行したダウジングと筆跡学に関する一次資料である。ドイツの心霊研究、特にダウジングと筆跡学に関しては、22 年度および 23 年度の調査では、ほとんど資料を収集することができなかった。したがって当年度の調査は、本研究計画の最終年度にあたって、これまでの調査の不十分な点を補完することを目的としていた。

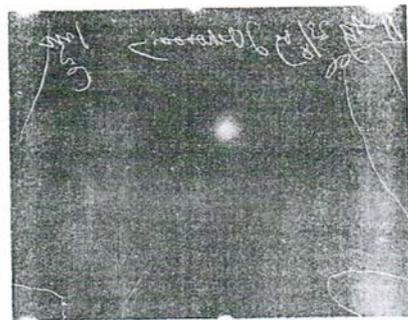
4. 研究成果

(1) 娯楽としてのトリック暴き

これまでのパラノーマル写真研究は、各種のパラノーマル写真の変遷を扱ったものが多く、パラノーマル写真の妥当性をめぐる当時の論争については、それほど詳しく論じられてこなかった。特に、The Magic Club によるトリック暴きや、Ada Deane による第一次大戦戦没者の心霊写真（図）に写った幽霊の正体を巡る騒動、Harry Price や Frank Mamott によるスライド講演などについては、あまり言及されてこなかった。しかしながら、Harry Price Library の一次資料からは、これらの論争がスピリチュアリズム向けでない一般の新聞・雑誌などにおいても比較的大きく扱われ、一種のエンタテインメントとして話題を提供していた様子が覗かれた。

(2) 心霊写真以外のパラノーマル写真

一般の新聞・雑誌などにおいてパラノーマル写真に対する言及が見られる場合は、幽霊の形を明確に認識することのできる心霊写真が中心であり、流体写真や念写については、広く一般的な関心を引きつけることはあまりなかった。この状況は、スピリチュアリズムの専門誌においても、それほど大きな違いはない。心霊研究誌 La Revue de Science Psychique に連載されていた Julian Ochorowicz の念写論など、専門誌での扱いが皆無だったわけではないが、それほど関心を引き出すことはできず、1960 年代に念写能力者 Ted Serios が登場した際、念写実験の先駆者として言及したのは、福来友吉のみだった。



Julian Ochorowicz, “Les rayons rigides et les rayons Xx.” p. 103.

(3) フリードリヒ・カレンベルク再評価



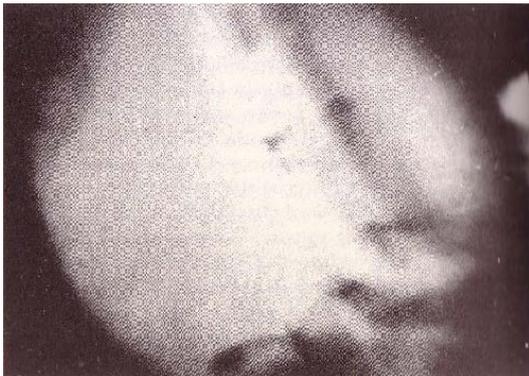
Friedrich Kallenberg. *Offenbarungen des siderischen Pendels.* p. 31.

本研究では、ドイツの心霊研究者フリードリヒ・カレンベルクについて、彼の主要著作を中心に再評価を試みた。カレンベルクが行った写真ダウジングの試みについては、ロルフ・クラウスの著書において若干の言及があるのみで、近年のパラノーマル写真関連の研

究においては、ほとんど言及されてこなかった。本研究では、カレンベルク自身の著作と合わせて、世紀転換期から戦間期にかけてのドイツにおけるダウジング・ブームについても資料収集を行ない、近代ドイツの周縁科学の中での位置づけについても検証した。

(4) テッド・シリアス再評価

本研究では、アメリカの念写能力者テッド・シリアスについても再評価を試みた。シリアスは、心理学者ジュール・アイゼンバッドの全面的な協力の下、ポラロイド・カメラを用いた念写を行った人物であり、当時のアメリカで大きな話題となった。外部世界と脳内イメージがオーバーラップする独特の作風や、何度もシャッターを切りながら徐々に画像を現出させていく撮影方法など、写真というメディアの本質について考える上でも、非常に興味深い点の多い事例である。本研究では、念写の元祖と言われる福来友吉の事例や、福来よりも早い時期に念写を試みていたダルジェ、オホロヴィッチなどの事例とも比較し、シリアスによる念写のパラノーマル写真史における意義について検討した。



Jule Eisenbud. *The World of Ted Serios*.
p. 30.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①浜野志保、「カレンベルクの写真ダウジング」、『SITE ZERO / ZERO SITE』第3号、pp. 82-91、メディア・デザイン研究所、2010年

〔学会発表〕(計2件)

①浜野志保、「写真とエネルギー」日本心霊科学研究協会・月例公開講演(2013年4月29日)

②浜野志保、「X線写真とパラノーマル写真」

日本超心理学会・第418回月例研究会(2012年11月12日)

〔図書〕(計1件)

①浜野志保、「ダニエル・ダングラス・ヒュームの空中浮揚」、一柳廣孝・吉田司雄・編『ナイトメア叢書8 天空のミステリー』、pp. 78-90、青弓社、2012年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浜野志保 (HAMANO SHIHO)

千葉工業大学・工学部・助教

研究者番号：90550666